

**Leloir, Maurice. Dictionnaire du costume et de ses accessoires des armes et des étoffes des origines à nos jours, achevé et réalisé sous la direction André Dupuis.** Paris, Librairie Gründ, 1951. 390 p. with illus. 29.7 × 25.5cm <383. 103-L>

フランスの画家、歴史学者、コレクターであったモーリス・ルロワール(Maurice Leloir 1853—1940)の、生涯を通じての服飾研究の集成であり、没後10年余にして初めて関係者によって刊行されたもの。当時の服飾史協会会長で従兄のジョルジュ・ガブリエル・トゥードゥーズ(Georges G.-Toudouze)が序文を書いている。

本書の前提となった著作は、1933年から1949年(最終巻は著者の没後、家族ールロワール・トゥードゥーズ一家が刊行)にかけて刊行された叢書『古代から1914年までの服装の歴史』*Histoire du costume de l'antiquité à 1914.* Paris, Ernst Henri, 1933—1949, <383. 13-L-1~4>であった。しかし、この叢書は次の5巻が刊行されただけで第1巻から第7巻までは未刊のままであり、本館には第9巻を除いての4巻が揃っている。

第8巻 ルイ13世時代(1610—1640), 1933年刊

第9巻 ルイ14世時代, その1(1643—1678), 1934年刊

第10巻 ルイ14世時代, その2と摂政時代(1715—1725), 1935年刊

第11巻 ルイ15世時代(1725—1774), 1938年刊

第12巻 ルイ16世時代とフランス革命時代(1775—1795), 1949年刊

この叢書には限定豪華本25部と非売品10冊(AからJまで)が含まれている。

各巻とも内容は①男女の代表的な上着, ②脚衣, ③頭部, ④下着, ⑤付属品と装身具, 時には⑥子供服などとなっている。

これらの歴史服研究を通じて、モーリスはその生涯のうちに、服飾博物館と服飾辞典を完成することを目指すようになる。そして、1906年、歴史服協会を設立し初代会長となるが、これは1920年に設立されたパリ市立博物館の母体となったものであり、ルロワールのコレクションはここに移管され、その夢の一つは実現された。77歳になった時、彼はもう一つの夢である服飾辞典にとりかかる。彼の最後の仕事となるこの『服飾辞典』は、その死までの10年間で費やされ、この間ほとんど1日に14~15時間も仕事をした。『服装の歴史』は、彼の晩年の最も充実した時期に出版されたものである。また、考証学的知識、技術的記述、洗練された感覚で他に比肩するものがないルロワールの『服飾辞典』は、彼の87年間にわたる全生涯を費やしてのみ完成することができた一種の作品集でもあり、画家、文学者、歴史家、俳優、映画家、クチュリエ、服飾研究者らにとって、フランスの服飾芸術を知る上で不可欠の書となっている。

芸術の世界にあっては往々にして代々芸術家の家系というべきものが存在するものであるが、この『服飾史辞典』をあらわしたモーリス・ルロワールも、18世紀から20世紀へかけてフランスの有名な芸術一家、シャル (Les Challe) - グルーズ (Greuse) - ドゥルーエ (Drouais) - コラン (Colin) - ドゥヴェリア (Devéria) - トゥドゥーズ (Toudouze) - ルロワール (Leloir) の一員として生まれている。この2世紀にわたる家系は父から息子へというつながりだけでなく、父系から母系に至る、より広いつながりを特徴とし、男性と同じように女性の活躍もめざましく、すべての家族が芸術の分野で活躍した真の芸術家王国を築いた。

モーリスは宗教画家であった父・オーギュスト・ルロワール (Auguste Leloir) とモードの挿絵画家として有名な母・エロイーズ (Héloïse) の二人の息子の一人であり、兄・ルイもまた画家であった。母・エロイーズは、旧姓コラン、すなわち、19世紀のファッション・プレート作家として著名なコラン三姉妹の長姉であった。中の妹・アナイス (Anaïs) は建築家であり画家であったガブリエル・トゥドゥーズ (Gabriel Toudouze) と結婚したが、トゥドゥーズ家もまた芸術家の家系であった。末の妹・ローラ (Laura) は画家ギュスターブ・ノエル (Gustave Noël) と結婚している。コランの末弟で画家のポール・コラン (Paul Colin) が結婚したのは、アシル・ドゥヴェリア (Achille Devéria) の娘サラであった。こうして、その父・母・兄・叔父・叔母・従兄弟・友人・弟子など当時の有名な画家たちと何らかの関係でつながっていたモーリスは、その天賦の才能に加えて、恵まれた芸術的環境の中で育ち、すでに幼くして画家になることのみ運命づけられていた。時代小説の挿絵画家であった母方の祖父・アレクサンドル・コラン (Alexandre Colin) は、また、歴史服のコレクターとしても有名でモリエール、マリポー、スコットなどの小説の挿絵を描く時、そのすばらしいコレクションの中から選び出した時代衣装やアクセサリを長椅子の上において写生していたが、幼いモーリスも、古い衣装の写生が大好きだった。エコール・デ・ボザールで学んだ後、編集者ローレット (Laulette) との出会い、モーリスを挿絵画家として出発させることになり、その第一作の成功で、小デュマ (Dumas fils) は大デュマ (Alexandre Dumas) の多くの有名な小説の挿絵をモーリスに依頼する。『三銃士』、『20年ののち』、『モンソローの婦人』……この後、彼は50歳までにおよそ300もの小説・戯曲の挿絵を描いた。(石山・深井)